

昆虫⑨

鹿児島のチョウ 最新情報

昆虫担当 中峯浩司

クロマダラソテツシジミ

Chilades pandava pandava (Horsfield)

羽を広げた大きさは約 2.5cm。本種は、羽の裏に波模様と黒い斑点のある南方系のシジミチョウのなかまです。



幼虫はソテツの新芽を食べて育ちます。

国内では 1992～1993 年に沖縄本島で、2001 年には与那国島で多発した記録があります。食害を受けたソテツが枯れることはありませんが見た目は写真のように悲惨です。

今年 7 月、このチョウが日本本土では初めて指宿市で採集されました。8 月に幼虫の発生も確認され、その後爆発的に数を増やし、9 月上旬には鹿児島市内まで分布を広げています。

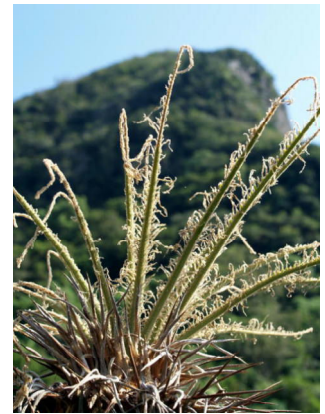
県内では他に徳之島と屋久島でも発生が確

認されており、沖縄南部の八重山地方で発生したものが気流に乗って各地に飛来したと考えられています。

卵が産み付けられてから羽化するまで約 2 週間。これほどのスピード成長はチョウの中ではトップクラスです。ソテツの新芽の成長が早いため、硬くならないうちに食べることに適応したものと考えられます。

今後、どこまで分布が広がるのか、各地の生息状況を調べる必要があります。

ソテツは学校や公園など公共施設によく植えられています。人家の庭先も要注意。



卵（白くて直径 0.5mm ほど）や幼虫が見つかりましたら、博物館にご連絡ください。

クロボシセセリ

Suastus gremius gremius Fabricius

本種も、もともと国内には生息していませんでした。1980 年代から、南西諸島を北上するように分布を広げ、



2005 年には奄美大島全島に生息するようになりまし。似たなかまが多いですが、本種の後羽の裏には、他のセセリチョウにはない黒い斑点があることで区別できます。また、幼虫は各種ヤシ類の葉を食べて育ち、葉を折って巣を作ります。

このチョウが、昨年秋に日本本土では初めて指宿市で採集され、その後幼虫で越冬したことが確認されました。

発生地付近に新たに植栽されたヤシが見当たらないことや、これまでも北上を続けてきたことから、生息地北限の奄美以南から飛来したものと考えられています。

今後、トカラ列島以北の離島での分布や南薩での分布の広がり注目されます。本種は、公園や街路に植栽されたカナリーヤシやシンノウヤシ、人家の庭先のカンノンチ 卵殻と 1 齢幼虫の巣



クで発生する街中のチョウです。

離島や薩摩・大隅南部で幼虫の巣が見つかりましたら、ご連絡ください。